

「三枝デジタル博物館」の作成  
～ 郷土三枝を愛する子を育てるために ～

代表者 福田 正晴 上出 巳吉 森 建次  
共同研究者 瀬ノ上 裕 荒川 哲郎

要約

【研究の動機・目的】

小学校教育のねらいの中に、郷土を愛する心情の育成がある。地域の先人の業績を教材化して授業を行う。地域の施設見学などを通して、少しでも郷土を理解し、愛着がもてるようにしている。また、保護者の方を含め地域の方々も地域の大切な子ども達が郷土を愛する心がふくらむことを願っている。しかし、社会生活の急激な変化等により、郷土への思いも多様化している。三枝地区においても、現実として個々の郷土への思いの温度差がみられる。

学校がセンターとしての役割をもち、児童の学習として、そして地域の方々をまきこみ、地域を見直し、記録する「三枝デジタル博物館」の作成に取り組むことにした。

また、今の郷土三枝を記録するに留まらず、継続的に内容を加えていけること、さらには長く記録として残せることを念頭に置きながら、取り組むことにした。

学校内の様々な教育活動や周辺の風景、また校区内にある有形無形文化財、季節を感じる四季の行事、自然や建築物、産業など今後大なり小なり変化が予想される内容について、地域の方々の協力を得ながら、児童の目で自らが取材し映像に収め、「三枝デジタル博物館」として構築する。こういった一連の活動により、児童はこれまで以上に地域の存在を意識化し、現時点での学校や地域を取り巻く景色や文化を「ふるさと」として心に強く刻み込む機会とする事ができると考える。

さて、高山市の小中学校の教育の方針と重点は次のようである。

大きな理想として

『学び得た「生きる力」がやさしさのある社会の礎となる教育をめざす』

また教育の方針として

「心に残る教育を創造する」～心に届く指導をとおして～

・自分の力で動きだす      ・互いに認め合う      ・子どもが力をつける

上記の市の方針と重点をふまえながら取り組もうとしている「三枝デジタル博物館」の作成は、児童の新たな心の変化を生み出すものと期待できる。その心の変化が記憶に残り、自分の力を高め、いずれは故郷三枝に戻り地域を支えようとするエネルギーとなるに違いない。

そのために、地域の人たちの知恵を借り、児童が取材を行うという地域に根差した活動の中で、「三枝デジタル博物館」作成の試行が価値を持つよう意義づけ方向付けを模索しながら本研究を進めていきたい。

---

代表者勤務校 岐阜県高山市立三枝小学校(平成21,22年度)  
共同研究者勤務校 岐阜県高山市立山王小学校(平成21年度)

## 1. はじめに

現在、全校児童数は平成2年度ピークであった300名から200名程度にまで減少している。そして平成23年度からは児童数が200名を切り、とうとう全学年が単学級になることが決定している。今後の児童の地域離れを少しでも解消しようとするこの取組は有益であると考えます。

また、取材したデジタルデータから、価値ある資料を選択し、「デジタル博物館」という作品に収録する作業を、地域住民を加えた組織で進めることにより、学校と地域とが一体化して取り組むことに意義があると考えます。

そして、将来的には、「デジタル博物館」を地域のデジタルアーカイブとして、学校の学習教材としての利用に留まることなく、広く活用を図ることを考え、後世への貴重な画像遺産として残すことを考えたい。

その作成にあたって、特に児童がどのように取り組むことができるのかを、実践を通して検討していく。また、PTAはじめ社会教育関係者等地域の方にどのように関わっていただくかを地域の方々の考えを取り入れながら検討し、実際に関わっていただいて「デジタル博物館」の作成を進めていく。

## 2. 研究内容

(1) 次の面において研究を進める。

「三枝デジタル博物館」の全体システムを構築する。

現時点における地域の特色を検討し、記録する観点を決定する。

年間の学校における教育活動について、記録内容を検討する。

利用面から検索しやすいよう項目(大項目、中項目、小項目)を検討する。

多面的・総合的な面から児童が記録したデータについて検討し、項目ごとに選択・分類を行う。

関係者以外の地域住民、学校職員から意見・感想等を集め、内容、利用等の充実の参考にする。

必要に応じて検討委員会を開催し、システム構成、選択データ等について加除修正を行い、博物館の充実を図る。

作成した「三枝デジタル博物館」の利用についてアンケートを実施し、評価を行う。

(2) 本研究を進める上での願い

児童が地域の素材資料を単にデジタルデータとして収集することにより、地域の理解が深まると共に地域の素晴らしさを認識することができる。

単にデジタルカメラで撮影するのみでなく、資料を取り巻く環境状況や記録状況も併せて記録することにより、撮影時点の正確なデータとする。

地域住民が参加することにより、作成するデジタルアーカイブが普遍性を持ち、地域に活力を吹き込む。

画像を通して郷土三枝が好きになり、一度はこの地を離れても、やがては戻ってくる児童が一人でも多くいてくれる。

### 3. 予想される成果

#### (1) 児童にとって

自らが収集した画像が、作品となって残る喜びを味わうことができる。

現時点での映像記録として、小学校時代のデジタルアーカイブ「校区のけしき」として残すことができる。

生活基盤である三枝地区の素晴らしさを知ることができ、「ふるさと意識」の高揚を図ることができる。

地域素材の何をどのような観点でカメラに収録するとよいのかという情報選択能力が育つ。

アーカイブの捉え方として、単に対象物の映像だけではなく、付随した資料(周りの状況や、期日、天候等)の必要性を学ぶことができる。

大人になった時、自分が小学生時代に過ごした三枝という地域空間を思い出す中で、「ふるさと」の持つ意味を考え、現在の生活基盤を大切にする気持ちを持つことができる。

#### (2) 教師にとって

地域の文化を理解すると共に、郷土に関する学習資料・教材として授業で利用することができる。

学校の教育活動を理解し、イメージをつかみ、活動計画を立てる際に資料として生かすことができる。

アーカイブの捉え方として、単に対象物の映像だけではなく、付随した資料(周りの状況や、期日、天候等)の必要性を学ぶことができる。

学校や地域に関する現時点での価値ある資料を貴重な保存記録として学校に残し、後に利用することができる。

#### (3) 地域住民にとって

地域住民の参加で作業を進めることにより、学校と地域が一層結びつきを強めることができる。

研究に参加した地域住民の得意分野が異なることにより、広く地域を眺めることができ、多面的・総合的な観点で地域の特色を見直すことができる。

研究に参加しなかった大多数の住民にとっては、作品を通して、地域の良さを再認識する機会となり、地域に誇りを持つことにつなげることができる。

#### (4) 情報教育の面から

デジタルアーカイブとして、後世への貴重な地域財産とすることができる。

児童が資料収集に参加することにより、デジタル画像の処理に親しみをもち日常的に記録に興味を持たせることができる。

アーカイブの捉え方として、単に対象物の映像だけではなく、付随した資料(周りの状況や、期日、天候等)の必要性を学ぶことができる。

「三枝デジタル博物館」の構築内容や作成手法について広く発表することにより、その方法を他の学校や地域でも取り入れることができる。

## 4. 児童・地域住民の参加について

### (1) 児童の参加

本研究の大切なねらいの一つが児童の手による取材 作成である。  
単に、「写真を撮っていらっしやい！」とカメラを渡すだけでは、願いに近づくことはできないと考えた。そのため、次のように児童に指導していった。

「デジタル博物館」の説明  
・どの様なものか？(Webの利用)  
・どのような意義があるのか？  
「地域性の強調」

見学のための課題づくり = 必然性  
社会科の学習を通して  
「三枝のタイムスリップ」

遺跡を調べ、先祖のくらしを感じよう。

「ウバガ平・三枝城跡・野内遺跡」の発掘  
説明会が、地域の施設である「風土記の丘  
学習センター」で行われていた。

これを教材としてとらえ、6年生が見学(取材)することとした。



【住居跡(児童撮影)】

デジタルカメラの使用方法  
の説明・練習

取材撮影の視点を考える。  
「先祖のくらしがわかる。」  
「先祖のくらしを説明できる。」  
・三枝の遺跡のすごいと思った事  
<加えて>

「風土記の丘学習センター」

をみんなに紹介しよう。

<状況>

- ・デジタルカメラによる撮影を本当に喜んで意欲的に実施できた。
- ・「デジタル博物館」についての、事前学習により、見学している様子の撮影(自分たち)を撮影したものは極めて少なく、遺跡より発掘された遺物をしっかり撮影していた。
- ・「風土記の丘学習センター」についても子ども目線でとらえた施設を他方面から撮影していた。外形 展示物 閲覧用図書 案内板 受付(事務室) 等
- ・子ども達の撮影した画像で十分施設の様子がわかる。(後から取捨選択できるデジタルのよさもあるが)子ども達の間隔で自由に撮影することも一つの方法かもしれない。
- ・岐阜県埋蔵文化財センターへ出向している教員が説明指導を行っており、本研究の意



【風土記の丘学習センター(児童撮影)】

義を理解し、協力していただいた。

・たまたま、「風土記の丘学習センター」の屋外施設である「竪穴式住居モデル」の茅の葺き替え作業中であり、木組みの様子や葺き替え作業という貴重な画像を撮影できた。

< 考 察 >

- ・取材内容の焦点化は必要であるか考える必要がある。自由撮影のよさもあるが、学習として考えた時には、目的を明確にし、そのために何が必要であるかを理解させる必要がある。これによって、撮影画像は焦点化されてくる。
- ・文部省の学習カリキュラムにそって学習を続けている学校である。その学習に本研究をどのように位置づけるかが課題である。
- ・今回はたまたま、社会科の学習の一貫として「風土記の丘学習センター」での学習を計画でき、取材できた。総合的な学習の時間も短縮される中で、本研究における児童の関わりについて研究しなければならない。
- ・他の学年でも実施可能か？遠足、社会見学、教科、総合的な学習(時数は少なくなるが)そして学校行事などの学習活動の中で、児童がデジタルカメラをもち撮影する習慣化ができるのではないだろうか。

## (2) 地域住民の参加

三枝地区には大変理解ある方々が多くいる。特にさまざまな団体の長・主務の方々には、この取り組みに対して快く理解いただいている。しかし、現在は資料収集をしていただいている段階であり、今後その資料の選択など作成に取り組んでいただくように学校から解りやすくお願いしていく予定である。

特に将来にわたって長くこの「三枝デジタル博物館」の加除修正を続けていくこと。そして活用いただくために、組織的な協力をお願いしていかなければならない。

< 諸役員による資料収集 >

本年度、時期的なこともあり、地域の祭礼行事の撮影を各種の役員の方々にお願いした。事前に、PTA会長等に「デジタル博物館」作成の意義等を説明してあったために、単に、スナップを撮影するのではなく、文化的な



【赤保木地区祭礼より(社教役員撮影)】



【下切地区祭礼より(PTA役員撮影)】

行事としての祭礼を意識して、獅子舞、稚児行列などを撮影していただく事ができた。3地区の祭礼を手分けして、撮影していただくことができた。



【上切地区祭礼より(町内会長撮影)】

< 考 察 >

その時になって学校が願  
いするのではなく、必須事項に  
ついては、年間計画を作成  
し撮影をお願いする。また、  
その方の考えで、随時撮影  
取材をしていただけるよう  
に、デジタルカメラをお預け  
することも、考えて行く。

## 5. 平成21年度の研究の足跡

- 4月 ・全職員への事業の趣旨・内容・計画を説明 (4月末職員会議にて)
  - ・校内の担当者、組織の編制 校外協力者の確認
  - (PTA実行委員会、社教運営委員会にて説明)
- 5月 ・校内打ち合わせ・研究テーマ設定
  - 「三枝デジタル博物館」の作成
    - ＝ 郷土三枝を愛する子を育てるために ＝
  - ・記録対象の確認
  - < 学校行事他 > (児童による撮影を検討する事ができず、まずはサンプルづくりのためのデジタル画像素材を職員で撮影。行事はまってくれない！)
  - ・研究計画の概略確認 (撮影計画・物品購入計画・児童による活動までの計画等)
  - ・PTA実行委員会への説明
    - PTA会長、広報委員長への協力依頼(PTA行事の撮影)
  - ・社会教育運営委員会での説明
    - 三枝地区社会教育委員長へ協力依頼
    - 三枝校区社会教育主事へ協力依頼(社教行事の撮影等)
- 6月 ・三枝ホタル保存会会長へ協力依頼(高山一位一刀彫り組合長)
  - ・記録内容の概要 …資料2
- 7月 ・記録内容の項目を検討
  - (地域の行事、季節の風景等記録撮影は可能であるが、児童をどのように関わらせていくかが課題となった。)
- 8月 ・必要器具(購入品)の見積依頼 (デジタルカメラ・デジタル処理用PC等)
  - ・デジタル博物館のフローチャートの作成 …資料1
  - (項目間の関わりをシンプルに留意)

- 9月 ・必要器具の購入  
 (デジタルカメラ・デジタル処理用PC等購入)  
 ・学校行事に加え地域行事の撮影(地域の例祭の撮影を依頼し実施) ・記録項目の見直し

(学校行事等) = 小項目の内容について検討(精選 将来広げるために)

- ・児童への指導内容について検討

- ・研究推進委員会の開催

(地域の方を招聘して)

社教関係・PTA関係・町内会関係

- ・研究の進捗状況の説明

- ・今後の計画について説明

- ・記録項目の検討・決定

- ・今後の計画について説明

- 10月 ・説明資料(様式)の検討開始

- ・6年生への研究内容の説明・取材について指導

- ・6年生による取材

(「風土記の丘学習センター」見学)

- ・「ウバガ平・三枝城跡・野内遺跡」の発掘遺物の説明会を通して。

(展示物見学と土器の拓本造り体験)

- 11月 ・「三枝デジタル博物館」デモ版の作成



【研究推進委員会の様子】

記録様式決定、数項目について記録を作成した。

新型インフルエンザ大流行のため、

学級・学校閉鎖があり、学校行事

「かぶら市」等の記録ができた程度で、

研究が進められなかった。

12月 ・冬季休業中にデモ版の作成開始

- 1月 ・デモ版作成中

- 2月 ・日本情報教育学会(岐阜女子大学)にて中間発表

- ・デモ版の検討と修正



【記録用紙】

## 6. 平成22年度の研究の足跡

- 4月 ・全職員への事業の趣旨・内容・計画を説明(4月末職員会議にて)

- ・校内の担当者、組織の編制 校外協力者の確認

(PTA実行委員会、社教運営委員会にて説明)

- 5月 ・校内打ち合わせ・研究テーマの確認

「三枝デジタル博物館」作成のための資料収集学習会

教職員への投げかけ

＝ 郷土三枝を愛する子を育てるために ＝

- ・記録対象の再確認
- < 学校行事 > ( 児童による撮影を検討する事ができず、まずはサンプルづくりのためのデジタル画像素材を職員で撮影。どんな行事も我々の都合に合わせて待ってはくれない！)
- ・研究計画の概略確認 ( 撮影計画・物品購入計画・児童による活動までの撮影計画等)
- ・PTA実行委員会への説明  
PTA会長、広報委員長への協力依頼(PTA行事の撮影)
- ・社会教育運営委員会での説明  
三枝地区社会教育委員長へ協力依頼  
三枝校区社会教育主事へ協力依頼(社教行事の撮影等)
- 6月・三枝ホタル保存会会長へ協力依頼(高山一位一刀彫り組合長)
- ・記録内容の再検討
- ・児童会広報委員会との関わり  
「自分たちで作る広報活動」について説明をする。  
活動の場所と時間  
デジタルカメラの使い方  
撮影した作品の活用について

6月11日 6年生による地域の歴史学習 (古墳見学)

- ・社会科の歴史(古墳時代)を行い、その時代の遺跡が、校区や飛驒に多く残されていることを知り、飛驒の古墳の特徴を知るとともに、その時代の大和朝廷との関わりを感じさせた。

デジタルカメラをグループに1台用いてその古墳の特徴を撮影し、古墳新聞を作成した。

- ・児童数43名 引率教員4名
- ・見学撮影場所:  
赤保木古墳群  
(高山市赤保木町)  
風土記の丘  
(高山市赤保木町)  
冬頭王塚古墳  
(高山市冬頭町)  
岩屋古墳  
(高山市千島町)  
こう峠口古墳  
(高山市国府町)



7月 記録の収集

【こう峠口古墳にて】



8月 記録の収集  
教育情報学会  
(岐阜女子大学)  
での中間発表

9月 記録の収集及  
び進捗状況の交流



【日本情報教育学会】

10月 授業における記録の収集

(1) 4年生による岐阜市周辺社会見学

社会科で学習した岐阜県の産業と資源リサイクルのしくみについて見学

・関市のフェザーミュージアム見学

昔はサメの歯をひげそりに使っていたことを知り驚く。

・日本耐酸塩工場見学

1分間に700本もの塩を作っている工場を見学、どんどん作られる塩の多さと工場の暑さ、そして大きな音に驚く。

(2) 6年生による高山市内  
社会見学

現在の高山市は、豊  
臣秀吉の命により金  
森長近が統治するこ  
ととなった。

長近は、城山とよばれる地に城を構え、周辺に寺町や武家屋敷、商人達の町並み、百姓達の農地に分けられた。

高山には、現在もその

町並みが残されている。社会科で学んだ長近の町造りについて寺町から古い町並みを中心に班ごとに分かれて見学をした。



【フェザーミュージアム】

- ・城山二之丸にて、金森長近の町造りを話す
- ・本丸跡見学(全員)
- ・寺町散策(東山遊歩道)(班行動)

- ・上一之町～川原町  
(班行動)
- ・高山陣屋見学(全員)

社会見学終了後、  
撮影した  
写真をもとに新聞  
を作成した。

11月 記録の収集

12月 記録の収集

1月 記録の収集

2月 広報委員に  
よる広報活動

冬季の学校生活の様子をデジタルカメラにて紹介した。

3月 まとめ



【寺町散策】

### 児童の記録の収集に関わって

(1) 広報委員会として、学校の様子や仲間の様子を自分たちの手で取材をし、デジタルカメラを使ってその活動を紹介しようとした。一人が1ずつデジタルカメラを手にして、その使い方から学んだ。

目的：三枝小学校の活動の様子や仲間の良さを全校に紹介しよう

#### デジカメ学習

- ・スイッチの入れ方から  
シャッターの押し方  
(デジタルカメラの使い方)
- ・脇を締めた撮影のポーズ
- ・何を撮りたいのか決めて  
撮影  
(背景やものを入れて撮影)
- ・フォーカス・ロック  
をしての撮影
- ・フラッシュを使っての撮影  
(距離は3 M前後で)
- ・遠近法を使って撮影



【デジカメ学習(広報委員会)】

撮影するときの約束や使用について教師の許可を取ること

(2) 広報委員会(児童10名)のアンケート結果

デジカメを使っての取り組みは楽しかったですか？ はい 9名  
デジカメの使い方は、わかりますか？ はい 10名  
もう一度デジカメを使った広報活動をしたいですか？ はい 9名

#### 楽しかった理由

6年M 児：ぐんぐんタイムの時に、いろいろな学級に行って勉強しているところや読書をしているところを取材することができた。

- 6年K児：デジカメが使えることや、皆の様子を撮ることができてうれしかった。
- 6年S児：もっと建物や文化的なものが撮りたかった。
- 6年S児：いろいろな活動を撮ることができた。その中で、皆の笑顔をたくさんとれたことがうれしかった。また、いい写真を選んで掲示することができたのも良かった。
- 5年H児：給食の取材をする担当でした。その日の献立を撮ったり、みんなが給食を食べているところを取材したりすることができて楽しかった。
- 5年I児：みんなが休み時間に楽しく遊んでいるところを撮ることができた。その撮った写真のできあがりを見るのが楽しかった。
- 5年T児：みんなが委員会やのびっこタイム、掃除の時間など、一生懸命取材しているところを見ることができてうれしかったです。
- 5年U児：休み時間に写真を撮って、その写真を見ると皆が楽しい顔をしていた。その笑顔の写真が撮ることができたことが楽しかった。
- 5年H児：撮った写真がみんな楽しそうに写っていたまた、撮りたいものがうまく撮ることができたときはとてもうれしかった。
- 5年S児：普段見られないような人の表情を撮ることができた。

次回はどのようなことをやってみたいですか？

- M児：デジカメをパソコンにつないで、みんなに紹介するページをもっともっとたくさん作ってみたい。
- MK児：撮った写真を多くの人に紹介したい。
- MS児：それぞれが担当を持って取り組んだが、自分の興味のあるものや好きなものを撮ってみたい。
- S児：まだ、撮っていない活動がある。そういうのをたくさん撮りたい。
- H児：デジカメがだいぶ使えるようになってきたので、家族で旅行などいろいろなところへ行って、家族写真を何枚も撮ったり、友達との思い出の写真を撮ってみたい。
- I児：今よりももっとたくさんの写真を撮って全校のみんなに見てもらえるようにしたい。また、撮った写真を定期的に掲示していきたい。
- T児：山の頂上から写真を撮ったり、動物を撮ってみたい。
- U児：笑顔がたくさんある写真をたくさん撮りたい。あとは、皆が何かに向かって頑張っている写真を撮ってみたい。
- HR児：皆の笑顔をいっぱい撮りたい。
- S児：いろいろな人の写真を撮ってみたい。そして将来自分が今撮った写真を見る機会を楽しみにしたい。



【デジカメを使った学習活動】

## 7.成果と課題

### (成果)

「デジタル博物館」の記録項目の決定(21年度・22年度分)

デジタル画像の収集と記録

- ・児童、職員、PTA役員により、本年の行事、項目について画像の記録ができています。特に学校行事関係はほぼ撮影ができた。
- ・また、各項目の画像記録を精選し、「デジタル博物館」用に絞ることも進んでいる。

項目の内容についての記録様式の作成(今後検討修正をかけていく。)

- ・記録様式は最も使用されているExcelを使用した。
- ・画像資料はフォルダ化し一般的に使用されているOS(Windows)のピクチャーフォルダにリンクするように作成し、関連項目のデジタル画像が検索できるようになっている。

児童による取材

- ・デジタルカメラによる撮影を本当によるこんで行った。意欲面では心配ない。
- ・取材内容を焦点化が大切である。学習目的を明確にし、そのために何が必要であるかを理解させる必要がある。これによって、撮影画像が焦点化されてきた。また将来の夢を持たせることができた。

PTA役員等による祭礼等の行事に関する撮影

### (課題)

記録資料については、その様式を今後も検討する必要がある。

どのパソコンでも閲覧できる。今後加除修正が簡単にできる事を考え、一般に普及しているExcel・OSのフォルダを利用して見たが、よりよいソフトを検討する必要もある。

文部省の学習カリキュラムにそって学習を続けている学校である。その学習に本研究をどのように位置づけるかが課題である。

社会科の学習の一貫として「風土記の丘学習センター」「古墳見学」での学習を計画でき、取材できた。総合的な学習の時間も短縮される中で、本研究における児童の関わりについてさらに研究しなければならない。

## 8.おわりに

地域を児童の目線で眺め、その地域に広がる人の営みに基づく文化や特徴を確かめながら、記録として収める活動は、とりもなおさず三枝に住む人々の心に「ふるさと」を焼き付けることになると考える。

作成途中の「三枝デジタル博物館」は、学校での地域学習教材としても、有用と考えられる。地域の自然や産業、建築物などについてそれぞれの特色が収録されるため、児童が地域について学習する際に、活用し易く構成することも大切な要素であるので、今後考慮したいことである。

校区には、現在、飛騨地域では最大級の病院が建設中であり、国道バイパスとしてのトンネル工事や付随する道路工事も行われている。さらには中部縦貫道の延長工事も計画され、自然環境も大いに変わることが予想される。そこで、現時点での工事の様子や風景の変化を記録しておくことは極めて大切なことと考える。

この研究がスタートする頃の「総合的な学習の時間」は十分確保でき、児童の手による写真の収録活動を行うことが可能であったが、教科の時数増による総合的な学習の時間の削減により、活動の時間がかなり窮屈になってきている。

一方、時代の変化に対応して、画像から映像への転換も視野に入れ、ビデオカメラの購入にも踏み切ろうと考えている。目まぐるしく変わる情報機器の発展に呼応していく必要があるのではないかという考えも大切にしていきたい。

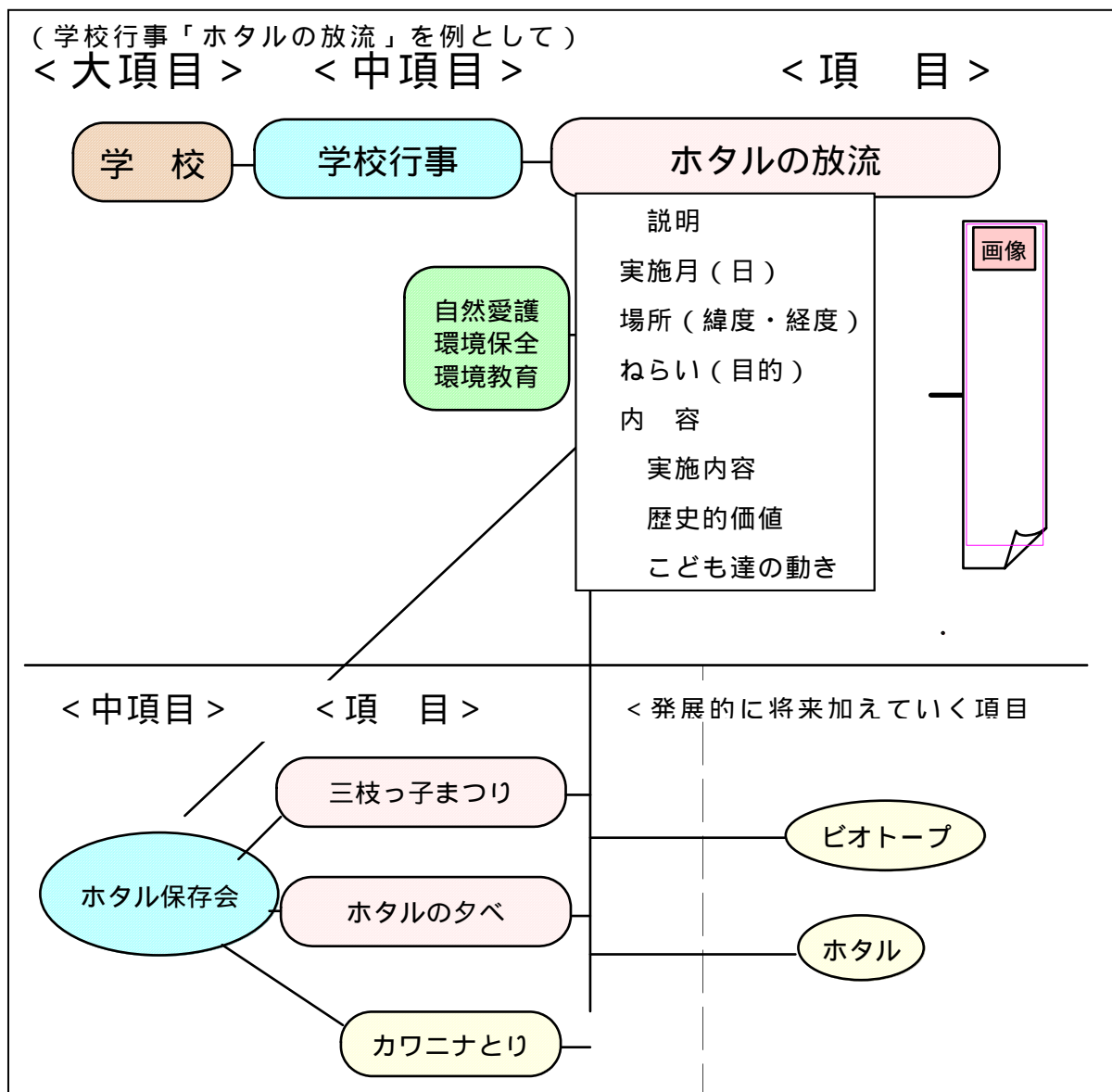
最後に、地域の人々の知恵を借り、児童が取材を行うという地域に根ざした活動の中で、デジタルアーカイブ「三枝デジタル博物館」作成の試行が価値あるものとなるよう今後さらに検討を重ねていきたい。

「三枝デジタル博物館」資料

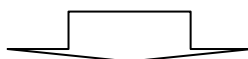
## 説明内容の検討

資料1

各項目のリンクによる関連づけ

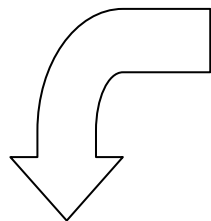


大項目	中項目	小項目
学 校	行 事	4月 着任式・入学式～ ～3月卒業式
	風 景(施設)	校舎・プール・グラウンド 実のなる木・御嶽・花壇 ホタル飼育小屋・ヒートアップ等
歴 史	遺 跡	ウバガ平遺跡 赤保木古墳・三枝城跡 野内遺跡 等 「風土記の丘学習センター」
	建築物	赤保木神社 下切神社等神社・随縁寺
学校周辺	農業	稲作・ほうれん草・果樹
	工場	日立情映テック・荒川製材 たかもく・峠産業 等
	道路・橋	県道・国道41号 八千代橋・三枝橋・熊野橋
	施 設	各町内公民館・JR上枝駅 久美愛病院(建設中)
自 然	地 形	検討中
	動 物	カモシカ 雉子
	植 物	ドングリ・かりん 等
文 化	芸 能	祭り・獅子舞
PTA活動	奉 仕	環境整備作業・行事協力
	研 修	親子の集い・家族参観日 参観日・懇談会 等
学校外活動 (生涯学習)	土曜教室	ハイキング・勾玉造り 土器造り 等
	社会教育活動 (検討中)	敬老会・卓球大会 等



## パソコンを活用したファイル検索

Web形式で作成した「三枝デジタル博物館」という画面から、この2年間で収集した三枝地区の画像を検索できるようにした。

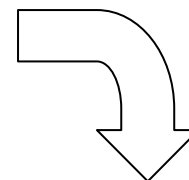


【上月用パソコン】

学校行事の入学式関係の画像を検索する場合

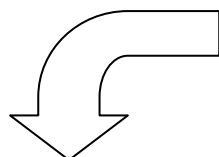


画面上の大項目の1つのボタンをマウスでクリックすると大項目を選択する画面に移動する。



\*「学校」のボタンをクリックした場合

大項目の「学校」の画面が現れる。  
中項目「行事」「風景」のボタンをクリックすると中項目を選択する画面に移動する。



\*「行事」ボタンをクリックした場合



行事関係の小項目を選択する画面に移動する。  
各小項目のボタンをクリックすると各小項目関係の画像が保存されているフォルダーに移動する。



「入学式」の画像が保存してあるフォルダーが開く。